

## 駒場防災についての長老談話

平成17年7月15日

### 1. Aさんのご意見

各家庭で火災を出さないように初期消火の徹底をはかること。

消火器の扱い方の徹底させる。

てんぷら火災の消火まで訓練したほうがよい。

小学校での非難訓練の時、小学生に消火器の扱い方を指導すべき。

訓練の時は水を入れた消火器を使うが、実際は粉状の消火器。水と粉では威力が全く違うことを、大きなグループにしたとき見せる必要がある。

駒場にはポンプ車が4台ある。

消防団管轄 B級1台、 郵政省官舎脇>

町会管轄 C級3台 <住区センター脇、駒場西口駅前、先端研内>

防災部員がまず常時訓練すべき。能書きをたれるばかりの輩、ただ飯ただ酒を飲むことしかしない輩は役にたたない。

ポンプ車の定期的点検がきちんとなされていない。

水槽に常時水がたまっているか点検すべき。

郵政省脇の水槽は坂を利用した雨水がたまり比較的問題ない。

駒場野公園内の水槽は200トンの容量で、プールの水が自動的に入るので問題ない。ただしポンプ車の性能からいうとホースを3本つなぐぐらいで水圧が下がってしまうのであまり遠くの火災には役にたたない。

問題なのは保育園の水槽で、外から水を入れないと水がたまらない。駒場の大火の時は、水槽に水が入っていなかった。これはあってはならないこと。どこが責任もって管理しているのか。

40年もの間、町会の縁の下で働いてきたが、今実際に働くひとがいなくて、若い世代に技術を伝えたくても若い世代が集まってくれない。

### 2. Bさんのご意見

最初から大きなことをしようとせず、小さなグループを大切に足元からかためたほうが良い。

まず身を守る

避難の前に初期消火の徹底

避難の際は必ずブレーカーを落とす

班毎の訓練が望ましい

各班長と防災部員、消防団員がリーダーになり班毎に消火器の扱い方の訓練をする。それならお年よりも子供も参加し易い。日中留守を預かる人が消火器を扱えるようになってほしい。

小さくても地道な積み重ねで、各家庭で初期消火が出来るように徹底すべき。

班毎の小さなグループでなら標語の確認もしやすい。

以上